



若年性がん患者団体

# STAND UP!!

# 17

2026.SPRING

- がん患者には夢がある -

Special Interview

お笑い芸人

## ジョックロック ゆうじろーさん

苦しいこともつらいことも、大変なこともある。  
でも笑えたこともたくさんあった



若年性がんと  
向き合う10人の  
ストーリー



みなさんが  
利用したがん治療に  
関連する  
助成制度や保険を  
おしえて!



「これ、あると助かる!!」  
—がん治療中の  
“ちょっとラク!”  
あつめました—

恋愛について  
50人への  
アンケート!



## 笑顔で過ごす決めた

大腸がんの宣告と手術から丸3年が経ちました(2025年7月現在)。当時の私からは想像できないほど今は元気に、当時お世話になった各科の先生やスタッフの皆さん、そして家族や友人に感謝し毎日を笑顔で過ごしています。

—がんになる前の私

看護師になり、宮崎から東京へ上京。主に手術室で働いていました。結婚後、息子を出産。専業主婦を経て、大学の看護科で非常勤講師をしていました。

—突然のがん宣告

37歳の時、便に血が混じることがあり、大腸内視鏡検査を行いました。その時は、ポリープを切除しました。しかし、その後も血便が続き病院を転々となりました。1年半後、不安が拭えず信頼する先生にお願いして再度大腸内視鏡を行いました。手術までの2週間

—手術までの2週間

がんになった自分を受け入れられず、眠れない日々が続きました。がん



### 戸村 妃美

会社役員、看護師  
(42歳/罹患年齢:39歳)

大腸がん

になってしまった自分を責め、家族以外に打ち明けることができず、鬱々とした日々を過ごしました。一番の心配は、当時小学3年生だった息子に寂しい思いをさせてしまうのではないかとという母としての不甲斐なさでした。

—急性精神病を発症

手術予定日までの2週間。もともと健康に自信があった私はショックが大きく、心身ともに疲弊し、急性精神病を発症し、予定していた日に手術を受けることができなくなりました。入院した大病院に精神科があったので転科し、精神科の治療を受けることになりました。当時の記憶はほとんどありません。

—手術成功

精神科で2週間、先生方や病棟スタッフの皆さんによる温かい看護、コロナ禍の中でオンライン面会してくれた家族から元気をもらい、自分を取り戻し、当初の予定より2週間遅れて、腹腔鏡下にて手術を受けました。数日後の病理検査の結果、ステージIIと診断されましたが、リンパ節への転移はなく、人工肛門や抗がん剤治療は必要ありませんでした。

—再発・転移に怯える日々

手術でがんを切除してもらったものの、看護師として働いていた頃に、さまざまな症例の患者さんを見てきた経験から、不安に押しつぶされ、自宅療養の生活が約3年続きました。

—笑顔を取り戻した

術後は3カ月に一回、3年が経った

今は半年に一回の検査で経過を見てもらっています。ある時、主治医の先生が

「不安はあるだろうけれど、大丈夫」と言ってくれたことが、私の調子の良い時も悪い時も、そばで支えてくれた夫や家族の存在に助けられ、泣いて過ごす日々が、笑顔で過ごす日々にならず変わりました。

—なりたくなかったがんが教えてくれたこと

あと2年で寛解を目標に、心身ともに無理せず生活しています。「がんII死ではなく」、がんになったことは、私に学びと謙虚さを持つきっかけになりました。がんになる前は人生を「勝つか負けるか」という極端な考えで生きてきたような気がします。今は、自分らしく生きていきたいと、生き方を見直す機会をもらえたと思っています。そして、より人に寄り添える生き方ができたらと願っています。

—これからの夢

3つあります。家族、友人と笑顔で過ごすこと。おしゃれを楽しむこと。BTSの推し活でトキメクことです。



コロナ禍で対面での面会が叶わなかったため、家族とオンラインで面会(夫が撮影)